第一〇七回楽々俳句会(ちば)

令和六年五月九日(木)　雨・曇

会場　千葉みなと駅からポートタワー　レストハウスパテオ

投句三句　五句選

久 久 2開け放つ教室の窓初夏の風　宣子
　藤棚の花の数だけ雨雫　宣子
久 1 3ポートタワー五月の空へ反り返る　静代
久 1 1海風に揺れて薔薇の香饗宴す　洋子
久 1 目薬をさせば水色五月来る　育子
久 1 夏の朝向き合ひてむくゆで卵　成子
久 1 溜息や白紙の句帳青葉風　今日子
久 1しばらくの背比べするあやめかな　粋歩
　風薫るポートタワーや千葉港　洋子
　菖蒲湯やありがたく肩を沈める　沈めたる
2 1開け放つ東京湾の初夏の景　久登
2 1大海を切り裂く舳先夏に入る　恵美子
1 曇天の波静かなり船の行く　季語無し　利太郎
5ビル街へ緑雨振り切るモノレール　久登
4卯の花や小雨に煙る船のり場　小雨の　豊隆
4楠並木立夏のしづく背に肩に　恵美子
2れんげ咲く岸に漂う異国船　豊隆
2夏に入る千葉の波止場も模様替え　静代
2夏の海白き航跡出船かな　粋歩
2惜春の海のしるべのタワーかな　恵美子
2夏の雨一気に海を濡らしけり　洋子
2うららかに高く飛び交うとびの笛　利太郎
　うららかや　「や」で切った方が納まりが良い
1万緑や遠く近くに波の音　粋歩
1甲斐駒や蒼く仰け反り山笑う　静代
1春の宵揺れし波間のポートタワー　信雄
1海の匂い風のさざめき雲の峰　育子
1桟橋を渡るリズムや風薫る　育子
1手賀沼や一歩踏み出す若葉雨　今日子
1蛇泳ぐ川の浅瀬の波間かな　ミチ子

ひとときの「吉原展」や春の酔ひ
桟橋の浮く停船に卯波たつ
　卯波立つ桟橋に寄り離る船
新緑やポートタワーのスーと伸ぶ
ソーダ水視水平線カップの中
　ソーダ水水平線のシルエット
久闊の喜寿朗らかや窓青葉
迎梅雨船さん橋に汐の風
梨の花愛しい摘果指の先
春風に香や緑と浮かれし吾
　春風の香りと緑浮かれし吾
今朝もまた寒さ身にしむ別れ霜　季語重ね
　別れ霜箪笥の整理進めたる
外つ国の果てなき戦白詰草
　外つ国の戦や四葉クローバー

参加者　成子・洋子・育子・宣子・静代・恵美子
　利太郎・粋歩・信雄・豊隆・久登
投句　今日子　ミチ子　欠席　園子・武彦・弘子

次回予定
六月十三日(木)　千葉公園　九時集合(大賀蓮)　活動センター
七月十一日(木)　吟行なし　兼題「葭切・行々子」活動センター
八月八日(木)　吟行なし　兼題「原爆忌」活動センター